



国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化

中央環境審議会総会（第23回）
資料3-4より抜粋

参考資料3

I. 背景

1. 現状とポテンシャル

	日本の国立公園	北米の国立公園
自然環境	バラエティ豊かな自然 (多様な自然景観・野生生物と季節変化)	ダイナミックな自然 (規模が大きい単一的)
土地所有	国・公有地、民有地	国有地(公園専用)
魅力ポイント	自然と人の暮らしの調和 (自然・文化・歴史・食・温泉...)	人為を排した、原生的な自然

※ 外国人が日本の旅行で体験したいこと：1位 日本料理、**2位 自然**、7位 温泉（環境省調査2015）



日本の国立公園は、**優れた自然のみならず、その自然に育まれた伝統文化や食などの地元特有の人の暮らしに触れられる公園**

2. 課題

インバウンドに対して、国立公園のポテンシャルが十分に引き出されていない

- ① 外国人が満喫できるメニュー、快適な利用環境の未整備
→ 魅力的なツアーの開発不足、多様なアクティビティや受入れ体制の不備
- ② 外国人をも魅了する公園利用拠点の不備
→ 国立公園の結界感の不足、ふさわしいまちなみ景観や上質な民間施設の整備不足
- ③ 外国人に日本の国立公園の魅力が伝わっていない
→ 世界的な認知度不足

➤ 自然と人の暮らしが調和する日本らしい国立公園のポテンシャルを活用し、世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化

日本の国立公園を、世界の旅行者が長期滞在したいと憧れるデスティネーションへ

II. 具体的取組

国立公園満喫プロジェクト

※ 国立公園についても
都道府県の取組を促進

まずは**5カ所**程度の国立公園で、「国立公園ステップアッププログラム2020」（仮称）を策定し、**2020年を目標**に、以下の取組を計画的、集中的に実施

満喫メニューの充実・支援

● インバウンドの受入れ環境の整備



地域の自然・伝統等を活かした
外国人向けツアー（アウトドア、文化体験等）の開発



環境省ビジターセンターに
民間ツアーデスクを設置
温泉体験プログラム・
健康増進ツアー（TOJI）の開発

・IT活用による観光・安全等の情報提供等

● 質の高いガイドの育成

● 地域自然資産法の活用促進による入域料徴収

● 保護すべき区域と観光に活用する区域の明確化

海外への情報発信強化

- 効果的に海外に情報発信
【外務省・観光庁と連携】

上質感の創出

● ビューポイントを核とした優先改善

● ナショナルパークにふさわしいまちなみ景観の形成 【国交省・観光庁と連携】



官民連携した
まちなみの統一



景観に配慮したコンビニ

● 海外の富裕層も惹きつける 質の高い民間施設の円滑な誘致

大会議場、ショッピング施設等を公園事業施設の付帯として認められる**基準を明確化**



観光資源の有効活用を目的とした関係省庁や関係自治体の一体的な取組の強化

- 地域協議会の設置

全国の国立公園に展開！！

2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人に！

これまでの議論を踏まえた課題

- 我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。
- 観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。
- CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。
- 高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」

視点 1

「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

- 「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放
 - ・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放
- 「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ
 - ・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化
- 「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ
 - ・2020年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善
- おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ
 - ・2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視点 2

「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

- 古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ
 - ・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トップレベルの経営人材育成、民泊・民泊の整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援
- あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現
 - ・欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにしたプロモーション、戦略的なビザ緩和などを実施
 - ・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
 - ・首都圏におけるビジネスジェットの受入環境改善
- 疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化
 - ・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
 - ・観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視点 3

「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

- ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現
 - ・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
 - ・ストレスフリーな通信・交通利用環境を実現
 - ・キャッシュレス観光を実現
- 「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現
 - ・「ジャパン・レールパス」を訪日後でも購入可能化
 - ・新幹線開業やコンセプション空港運営等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現
- 「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現
 - ・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
 - ・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化